

巣蜜の作り方

俵 養蜂場 養蜂参考資料ライブラリーNo. 21

1. 準備するもの

- ① 群勢の良い継ぎ箱群。
女王は新王が望ましい。蜂はできればカーニオラン種の群がよい。
- ② ハーフサイズ（半丈）の継ぎ箱とそれに見合ったサイズの巣枠を作る。
- ③ 巣礎 100%蜜蝋使用の巣礎。
- ④ 隔王板

2. 手順

流蜜が始まったことを確認したら；

- ① 上記①の継ぎ箱群を選んでおく。無ければ合同して作り上げる。
- ② ②の半丈巣枠に③の巣礎をぶら下げる。（針金は使わず上棧のみぞに差し込み蝋づけして止める。）枠には三角ゴマは付けず、自由にスペースが変えられるようにしておく。上記②の継箱の底には、あらかじめ④の隔王板を取り付けておくと便利。
- ③ 継ぎ箱 2 段目の巣脾にすでに蜜蓋がかかっている場合には、一度採蜜してからその直後に蜜巣製作用の継ぎ箱を乗せる。
さもないと蜜蜂の最上階の空間認識が弱く、造巣が進まないことが多い。
- ④ 蜜巣は全面蜜蓋がかかったときが完成であって、あせって無蓋の未成品を引き上げないこと。これに要する期間は流蜜の状態と蜂群の強弱、品種によって大きく異なる。
- ⑤ 引き上げた蜜巣を長期保存するためには、2 硫化炭素または B401 で巢虫（ハチノスツヅリガ）の駆除をした後、密閉した状態にする。
- ⑥ 蜜巣を切る場合はナイフを温めた状態で使うこと（特に冬）。
- ⑦ 容器はふたつきのアクリル製のトレイがよい。

3. その他の注意点

- ① ダニ寄生や病気の恐れのない群を使うこと。途中の投薬はできません。
- ② 製作に日数がかかりすぎると巣の表面の色が次第に褐色に変わってくるので強勢群で確実な流蜜期を利用して手早く仕上げること。
（カーニオラン種は最速で仕上げる。真っ白な美しい蝋を分泌する。）
- ③ 天候の悪化などにより、あと一步蜜巣完成に至らないような場合は、安心できる蜂蜜を糖度 70 以下まで薄めて給餌して仕上げるとよい。

半丈巢枠と継箱



完成状態

